

## USB ダンパーの導入(20)

### —カートリッジのヘッドシェル固定部への適用—

#### 1. 始めに

前報(19)に引き続き、USB ダンパーのカートリッジのヘッドシェル固定部への適用を行ってみます。

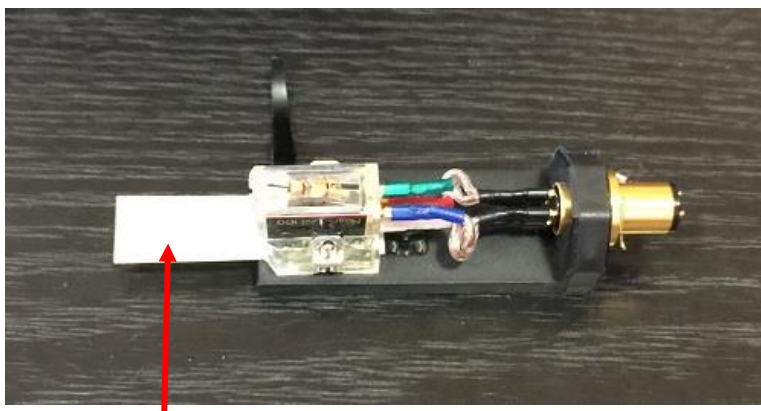
#### 2. USB ダンパーの試聴計画

制振材等をヘッドシェルへのカートリッジの固定部に適用する例は、従来からあり、市販のアクセサリもあります。

前報(19)で USB ダンパーのヘッドシェルチャック部への適用において効果を認めたことから、USB ダンパーのカートリッジのヘッドシェル固定部への適用を行ってみることにしました。

前報(19)の USB ダンパーのヘッドシェルチャック部への適用はそのままとし、これにヘッドシェルへのカートリッジの固定部に適用することを追加します。

手順としては、ヘッドシェルへのカートリッジ固定用のビスを緩め、USB ダンパーを差し込みし、固定用のビスを締めた後、はみ出した不用な分の USB ダンパーをカットします。



USB ダンパー (カートリッジに合わせて切り揃える)

再生ルートヴォリュームアキュライザーの導入(13)と同様で、次のとおりですが、駆動アンプが修理の終わった 300B シングルアンプに替わっています。

Garrad401→(フォノケーブル)→My Sonic Stage1030→(RCA ケーブル)→マランツ 7 タイプキットプリアンプ (フォノ入力→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→Brooklyn DAC+ (ライン入力) →TruPhase→300B シングル

Brooklyn DAC+から TruPhase を経由して 300B シングルまではバランス接続で、Brooklyn DAC+以降の経路や VRA-7 などの使用状況は、ヴォリュームアキュライザーの活用(20)の場合と同様です。

今回も、ヴォリュームアキュライザーの導入(13)と同様、次のアナログ盤を選定しました。位相反転は、TruPhase でなく Brooklyn DAC+で行います。

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

ARCHIV(日本ポリドール) 28MA 0020

J.S.Bach チェンバロ協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

### 3. USB ダンパーの試聴結果

通常の場合でも、Brooklyn DAC+以降をバランス接続としたこと、VRA-7 を要所にセットし、さらに前報(19)の USB ダンパーのヘッドシェルチャック部への適用効果も加わって、十分納得のいく音質です。今回の音の変化は、SB ダンパーのヘッドシェルチャック部への適用効果への、カートリッジのヘッドシェル固定部への適用効果の上乗せということになります。

USB ダンパーのカートリッジのヘッドシェル固定部への適用を行いますと、倍賞千恵子では、劇的な変化とは言えませんが、声のニュアンスが優しくなり、バックの伴奏が明瞭になります。

チェンバロ協奏曲では、チェンバロの繊細感が向上し、アンサンブルの分離がよくなります。

結果として、この上乗せで、何もしなかったヘッドシエルのチャック部への適用以前の状態からは随分変わったという印象です。

ここまでくると、ヴォリュームアキュライザーの導入(7)で結果の良かったマランツ 7 タイプキットプリアンプへの VRA-7 の適用をやってみたくになりますが、VRA-7 が足りません。そこで、300B の VRA-7 を一つ外し、マランツ 7 タイプキットプリアンプに付け替えます。300B の方は、L/R の 2 本のピンヴォリュームに両面テープを貼ったチーク材の端切れを橋渡しで接着し、そのチーク材に残りの VRA-7 を貼り付けます。つまり 300B のピンヴォリュームは、チーク材を介しての VRA-7 の効果を聴くことになります。



以上の変更で、300Bのピンヴォリュームへの効果のマイナス分とマランツ7タイプキットプリアンプ効果のプラス分のトレードオフになりますが、後者の効果がやや勝っているようで、総じてソフトな音になります。

#### 4. まとめ

USBダンパーのカートリッジのヘッドシェル固定部への適用の効果を認めました。結果として、ヘッドシェルチャック部への適用の効果に今回の効果が加わって、以前の状態からは随分変わったという印象です。

以上